ひるまだより

2007.05 vol.15

医療法人
ひるま矯正歯科
Hiruma Orthodontic Office
立川市曙町2-9-1菊屋ビルディング2F
TEL:042-526-3376/FAX:042-528-1102
URL:http://www.hiruma.or.jp/

ごあいさつ

梅雨

日本は四季ではなく梅雨を入れて五季だと、日本に永く住む外国人が言っていました。昨年の東京は約50日間が梅雨でしたから、雨期があるというのも分かる気がします。

ところでなぜ梅雨と書くのでしょうか。歳時記によると「『梅雨(バイウ)』は中国の言葉で、梅の実が熟す頃に降る雨を梅雨といい、日本人は梅干しを作る頃の雨から『露(ツユ)』を連想して、梅雨をツユとも読むようになった」とあります。鬱陶しい梅雨ですが、生物には大切な水分補給であり水資源でもあります。そう思えば「梅雨もまた良し」です。

歯の豆知識

アンチエイジング —老化のメカニズム

老化とは、心の中を含めて身体全体が非常に複雑な過程を経て起こる変化のため、その概念や定義はいまだきちんと定まっていません。しかし、近年の目覚ましい研究から、老化のメカニズムが少しづつ解明されようとしています。たとえば、細胞には遺伝的に老化の機序が組み込まれているとする「プログラム説」、遺伝子やDNAの異常が蓄積して死に至るとする「エラー蓄積説」、活性酸素(フリーラジカル)が酸化ストレス(いわゆるサビ)を起こすためとする「フリーラジカル説」など、他にもまだありますが、いまこれら老化仮説の統合に向けて、厳しくその検証と修正が行われているところです。

どの仮説にも、遺伝子レベルに障害をもたらすものとして、大気汚染、紫外線、喫煙などの有害環境が指摘されていますが、障害因子としてもっとも注目されているのが酸化ストレスです。ヒトが生きるうえで酸素は欠かせないものですが、鉄が錆びたり林檎の切り口が赤くなるなどの酸素の働き(酸化ストレス)は、体内の細胞にとって有害に作用します。この酸素を活性酸素といいますが、活性酸素とは不安定な分子構成をした酸素のことで、不安定ということは容易に他の原子や分子と反応することなので、活性という言い方をします。この不安定な化学構造をフリーラジカルといいますが、アンチエイジングを語るとき、フリーラジカルといえば活性酸素のことを意味しますので、フリーラジカルと活性酸素は同義語と考えてください。

次回は、歯周病の要因でもあるこの活性酸素についてもう少し詳しくお話します。

ヒルマトキオのホッとひと息

あじさい忌

著名な文人が亡くなると、命日を作品や好きな花などからとって○○忌と名づけるようになったのはいつの頃からでしょうか。太宰治の桜桃忌、芥川龍之介の河童忌、司馬遼太郎の菜の花忌などは有名ですが、「放浪記」を書いた林芙美子の命日は「あじさいき」と平仮名で書きます。尾道市で多感な少女時代を過ごした林芙美子はあじさいをこよなく愛し、その花の咲く6月28日に48歳で亡くなりました。今年は没後55年になりますが、毎年「あじさいき」には地元の人やファンが芙美子像にあじさいを献花し、林芙美子を偲ぶ行事が行なわれています。

アジサイをこよなく愛したもう一人の有名人に、俳優の石原裕次郎がいます。今からちょうど20年前の1987年7月17日、肝臓がんのために52歳の若さでこの世を去りました。葬送の日、祭壇は裕次郎がこよなく愛したアジサイでいっぱいに飾られたそうです。以来、7月17日の命日は「あじさい忌」と呼ばれるようになりました。ちなみに裕次郎さんは大変な「雨男」で、命日の行事はいつも雨のため、いつしか「裕次郎雨」と呼ばれるようになったといわれています。

ところで石原裕次郎といえば、矯正医として大いに気になったのがあの歯ならびです。実物に会ったことがないので分かりませんが、叢生(そうせい)という不正咬合の典型だったと思います。矯正医になりたての血気盛んな頃、裕次郎の顔が画面にアップになるたびに、「うん、上下第一小臼歯抜歯の適応症だな」などと思ったものです。

ドキュメンタリー・矯正治療

「リムーブの準備(矯正装置を外すための準備)」

今号は、いよいよ歯を動かす治療を終えるための準備、リテーナーの製作についてご説明します。

■「動的治療」から「保定治療」へ

矯正治療は、歯を動かす治療である『動的(どうてき)治療』と動かした歯を安定させる治療である『保定(ほてい)治療』に分かれます。

動的治療でこれ以上歯を動かす必要がなくなったらバンドやブラケットを外し、歯の磨きやすいお口の中がスッキリとした状態にすることが理想的です。しかし、人間の身体には恒常性(同じ状態を保ち続ける力)があるので矯正治療で新しく創り出された歯並びやかみ合わせは元の形に戻ろうとします。これは矯正治療による歯の移動が歯の神経や血管、歯根周囲の靭帯などがつながったまま行っているために避けられない事です。

そこで、歯を動かした後も歯並びが元に戻らずに安「定」した状態を「保」つ治療、『保定治療』が必要となるのです。保定治療では、歯を積極的に動かしたり歯根の角度を変えたりするわけではないので動的治療の様な装置が必要なくなります。そこで動的治療後にはブラケットやバンドを外し、より歯が磨きやすく負担が少なく、歯並びやかみ合わせを安定させる事が可能な装置「リテーナー」に切り替えていきます。

■リテーナーの製作方法

リテーナーにはとても多くの種類があり、全ての装置を説明することは出来ません。そこで、ひるま矯正歯科で最もよく使っているリテーナーについてご説明します。

・上顎…ベッグタイプまたは、マウスピース型
・下顎…下顎前歯の裏側にワイヤーを直接接着するFSWタイプ

どちらのリテーナーもお口の中で直接作ることは出来ないため、お口の型をとり(印象採得)をして石膏で模型(作業用模型)を作成しその模型上でリテーナーを製作します。リテーナーの印象採得は「次回装置を外しますよ!」という時に行います。そして次回の来院までにリテーナーを完成させ、来院時には今までの装置を外してリテーナーをセットするのです。

下顎の印象採得を行っているところ

印象採得によって作成された石膏の作業用模型を調整しているところ

完成した上顎のベッグタイプリテーナー

下顎のFSWタイプリテーナー